

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	21220006	研究期間	平成21年度～平成25年度
研究課題名	内因性カンナビノイドによる逆行性シナプス伝達の脳機能・脳病態における役割の解明	研究代表者 (所属・職)	狩野 方伸（東京大学・大学院医学系研究科・教授）

【平成24年度 研究進捗評価結果】

評価		評価基準
○	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>神経活動調節の機構として、この分野は精神病態学興味も巻き込み、世界的に注目される大変重要な分野となってきている。神経細胞はシナプスを介して神経情報を伝達していくが、その過程の一つに逆行性シナプス伝達があり、マリファナ類似物質であるエンドカンナビノイドが作用する。</p> <p>研究代表者らは、種々の常套的神経科学的手法を用いて、エンドカンナビノイドの作用する分子メカニズムを解明してきた。研究者間の連携を密に効率よく研究を進めて、当初目標以上の成果が得られつつあり、それらは世界的レベルの学術雑誌等に報告されている。</p>		